

(様式2)

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 磐田市立竜洋西小学校 】

1 実践テーマ	①・II・③・IV・⑤(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生・90名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 教科名 ( 総合 ) ① 行事名 ( ) ② その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	パラスポーツに親しんだり、パラアスリートと触れ合ったりする活動を通して、自分自身の生活や生き方を見つめ直したり、自分の可能性をもっと広げたいという思いをもったりするきっかけとする。また、一流アスリートの技術のすばらしさを感じ取り、パラスポーツを含めたスポーツ全般への興味・関心、「東京2020大会」への期待を高める場とする。
5 取組内容	【事前】 ・パラリンピックの趣旨を学び、競技種目について本やインターネットで調べ学習を行った。 ・パラスポーツの中でも、ポッチャに注目して、ルールなど基礎的なことを知った。

【実施】



・磐田市のボッチャに詳しい方に説明をしていただき、子どもは遊んで、パラスポーツに親しんだ。



・肢体が不自由であっても、スロープを利用して、競技が行えることを説明していただいた。

【事後】

・ボッチャの体験と福祉の学習と関連させ、みんなが気持ちよく生活できる社会について考えた。

6 主な成果

・パラリンピック競技を調べたり体験したりしたことで、障がいを抱えた方が力強く生きていることが分かった。  
・ボッチャが障がいの有無に関わらず、どんな人とも一緒に競技できることから、みんなが気持ちよく生活できる社会でありたいと考えた。それにより、バリアフリーやユニバーサルデザインなど生活を支える道具に関心をもつようになった。  
・パラリンピック、パラスポーツへの関心が高まった。

7 実践において工夫した点(事業の特色)

・磐田市のスポーツ振興課と連携して活動を進めた。

8 主な課題等

9 来年度以降の実施予定

・「ボッチャ」を通して、パラスポーツのよさを実感できるために、購入した用具を使って、多くの子がボッチャに触れる機会を十分に設ける。  
・また、磐田市のスポーツ振興課と連携して、生涯にわたって、スポーツを楽しむ心を育成していく。